

回覧

清川歴史公園かわら版

きよかわマルシェ初開催！大勢の来場者で賑わう！

キッチンカーほかテント店舗など28店が集まる

朝から大勢の来場者で賑わう
清川グラウンドと体育館



四月六日(土)清川グラウンドと清川体育館を会場に「きよかわマルシェ」(共催:清川地区振興協議会)を開催しました。当日は朝から晴天に恵まれて、午前十時のオープンから大勢の来場者で賑わいました。



出店営業中のキッチンカー

【キッチンカー・テント店舗】キッチンカーでは、台湾料理やピザ、焼きとり等を販売しました。テント店舗は、コーヒーや新鮮な野菜、手工芸品、アクセサリー等を販売。またヨガなど体験コーナーもありました。

【大河ドラマ誘致協議会】清河八郎大河ドラマ誘致協議会のブースでは、紙甲冑で記念撮影したお子さんを対象にして「八郎カプセルトイ」がチャレンジできる企画を実施しました。



高麗門から撮影した会場

発行所

○清川歴史公園
管理運営委員会

□庄内町
立川総合支所
立川地域振興係
TEL:0234-56-2217

○庄内町
「清河八郎」大河ド
ラマ誘致協議会

□庄内町教育委員会
社会教育課
TEL:0234-43-0194

現在八郎カプセルトイは、清川関所や清河八郎記念館など町内六ヶ所に設置されています。

きよかわマルシェは、単なる買い物の場ではなく、会場を訪れた皆さんと出店者が交流し、清川地区の魅力を再発見する機会となりました。



5月22日開催 歴史講座 in 清川 「近世清川関所の役割」

五月二十二日(水)に令和六年の第一回「歴史講座 in 清川」を開催しました。町内をはじめ鶴岡・酒田などから二十名にご参加いただきました。

今回は「近世清川関所の役割」と題して、飽海地域史研究会長の小野寺雅昭氏にご担当いただきました。



飽海地域史研究会
会長 小野寺 雅昭氏

庄内藩の関所(番所)が置かれた清川は五月から八月にかけてとても賑わい、幕末期には年間

三万人を超える参拝者が清川から三山詣でに向かったと言われています。本講座では清川関所が果たした役割を読み解いていただきました。

【参加者募集】 第二回 歴史講座 in 清川 七月十日(水) 開催 藤島歴史探訪

今回は当講座で初めての現地研修です。清川街道や松山街道、備中街道が集まる「鶴岡市藤島地区」にスポットを当てて、地域の歴史に詳しい方からガイドいただきます、江戸時代の面影をたどります。

令和6年度 第2回 歴史講座 in 清川

清川街道を歴史探訪

～庄内藩内線に築かれた面影をたどる～

令和6年 7月10日【水】

講師 阿部 公彦 氏

時間 9:00～13:00(午飯)

参加費 お一人様5,000円

申込 申込書・お申し込み料を事務局へ

申込先 清川歴史公園 事務局

申込先 電話 011-822-1111

申込先 申込書 011-822-1111

申込先 申込書 011-822-1111

【集合】 清川関所
午前八時五十分
バスで藤島へ向かいます。
到着後、徒歩で東田川文化記念館や追分石などを巡ります。



国史跡 東田川文化記念館

また視察研修終了後は、清川関所に戻って、食事処 御殿茶屋の「東風そば」と「そばぜんざい」の昼食をお召し上がり下さい。
(午後一時過ぎ終了予定)

【参加費】おひとり三千元
【申込受付】清川関所
【電話】〇二三四、二五、五八八五



昼食は関所名物「東風そば」

【渡場(わたしば・渡し場)】川の渡し舟が発着した渡場。清川街道には、赤川渡場、藤島川渡場、京田川渡場の三つの渡場がありました。(立川町史より)今回は京田川渡場を訪ねます。



庄内町の子供達が「歴史の里きよかわ」でふるさと学習

認定こども園からふる・5歳児親子事業と余目中学校1学年



【五月十四日(火)】
 認定こども園 からふる
 「親子で歴史の里きよかわを探検」
 狩川の認定こども園からふる・さくら組5歳児のお子さんと父母の皆さんが、グループで清川を巡りました。
 清川関所の芭蕉・曾良の顔出しパネルや紙甲冑で記念撮影したり、御諸皇子神社では随神門の仁王像を近くで見上げたり、北楯大堰のそばを歩いたりしながら、清川の観光スポットに隠された文字を探し、クイズの答えを見つけていました。



【五月二十一日(火)】
 余目中学校1年生をまち歩きガイド

余目中学校1学年のふるさと学習できよかわ観光ガイドの会が生徒さん百二十名をガイドしました。
 また清河八郎記念館では廣田館長による講話、北楯頭首工では最上川土地改良区の方々による説明も行われました。
 日々の学校生活とは異なる環境で、生徒の皆さんはふるさとの歴史を再発見されたようです。

歴史の里のおもてなし
 ～ガイドの会より～

「御殿林のひとりごと」

御殿林は最上峽を渡ってくる東風から杉襖として清川を守ってくれる大切な場所です。庄内藩主が三千本の苗を植えたのが始まりです。

幕末の戊辰戦争では戦場となり、庄内軍の盾となりました。太平洋戦争の際は、船の材料として多く切り出されました。

又、村人にとっては、強風の度に落ちる枝葉が貴重な燃料となりました。大人も子供も拾いにきてそれが掃除となり林中はいつもきれいだっただんです。今は地域の皆が守り歴史の里として関所と共に多くの観光客にも涼と癒しを与えてくれます。

先日は余目中学校一学年の皆さんが、ふるさと学習で清川へ来てくれました。



御殿林

これからもずっとずっと御殿林を愛してくれることを願っています。
 御殿林は頑張っています！

【会員募集】

きよかわ観光ガイドの会

私たちと一緒に清川を案内する仲間になりませんか。
 お客様と一緒にまち歩き(ウォーキング)は健康にも良いです。

「お問合せ」清川関所(電話)
 ○二三四、二五、五八八五



「清河八郎の『日記』」(一)

「波乱の半生の
克明な記録」



1

八郎はたくさんさんの著作を残しており、その大半が山形県指定文化財になっている。日記には「旦起私乗」全三冊、「私乗後編」全三冊があり、生まれた年から二十三歳の正月まで全文漢文で書いている。生まれた年から十七歳までは記憶をたどって書いたものらしい。日記のタイトル「旦起」とは朝早く起きて勉強する、という意味で八郎の性格を端的に表している。

2



3

八郎が幕府の罾にはまり人を斬って逃亡し、全国に志士を求めて旅した記録に、「潜中紀略」「潜中紀事」「潜中始末」計五冊がある。学者としての著作物は十三冊あり、活字を買って弟子たちに印刷製本をさせ出版したものもある。著作物で最も眼をひくのは、母の老後の楽しみにと書き残した旅日記「西遊草」である。

4



維新の魁 清河八郎を大河ドラマに!

「清河八郎」を主人公とする大河ドラマの実現を目指し、平成三〇年五月に「清河八郎」大河ドラマ誘致協議会を設立しました。現在、清河八郎を多くの人に知ってもらいたい!という願いのもと、周知活動を行っています。

●「西遊草」より

(安政二年六月十四日、京都にて)
私は若年の頃から天下を見て回り、六十余州、足を踏み入れていないところはない。つらつらと天下を考えるに、西方からわが国は開けたのだから、関東は太平の世になってから繁華になったのである。太田道灌の頃は武蔵野といって人家もまれな辺鄙な地だったのを、徳川家が入府して以来、ついに天下第一の名所となり、世の人は金をいとわずに

5

訪れ、幸い三百年あまりも平和が続いているためますます磨きがかかり、さまざまなものが入ってくる。そのため天下の人民で一芸に秀でた者がいずれも江戸にやって来るので、英傑の人々がみな江戸の住民となるので、昔は盛んだった西方の国々は次第に衰えていった。そのため、何事にも悪賢くなり、細かくて表面をつくろい、

6

遠くからやって来た素朴な民衆をだますようになり、まことに残念である。

なかでも京都は高位貴官が集う王城に似合わず万事が軽薄、けちなことこのうえもない。何事も陰でたくらむため、弁舌のみが上手になり、見ると聞くでは大違い。そのため近隣では「京の弁舌」と言われて有名で、人をだます風習となつてまことに嘆かわしい次第だ。そのため男らしい大人物の気風は

7

「清河八郎」大河ドラマ誘致協議会
Instagram はじめました★



@KIY08KYOGIKAI

まるでない。控えめに言っても、少しでも侠気のある人物なら、とても永住できる地ではない。このよくなわけてたとえ争乱の世になっても、昔はさておき、現代のこんな風潮であれば度量の広い英明な名将は出ないだろう。戦国期に京都近辺に英雄が多く現れたのは戦争の盛んな時代だったからである。

…「清河八郎グラフィティ」より
次号へつづく

9



8